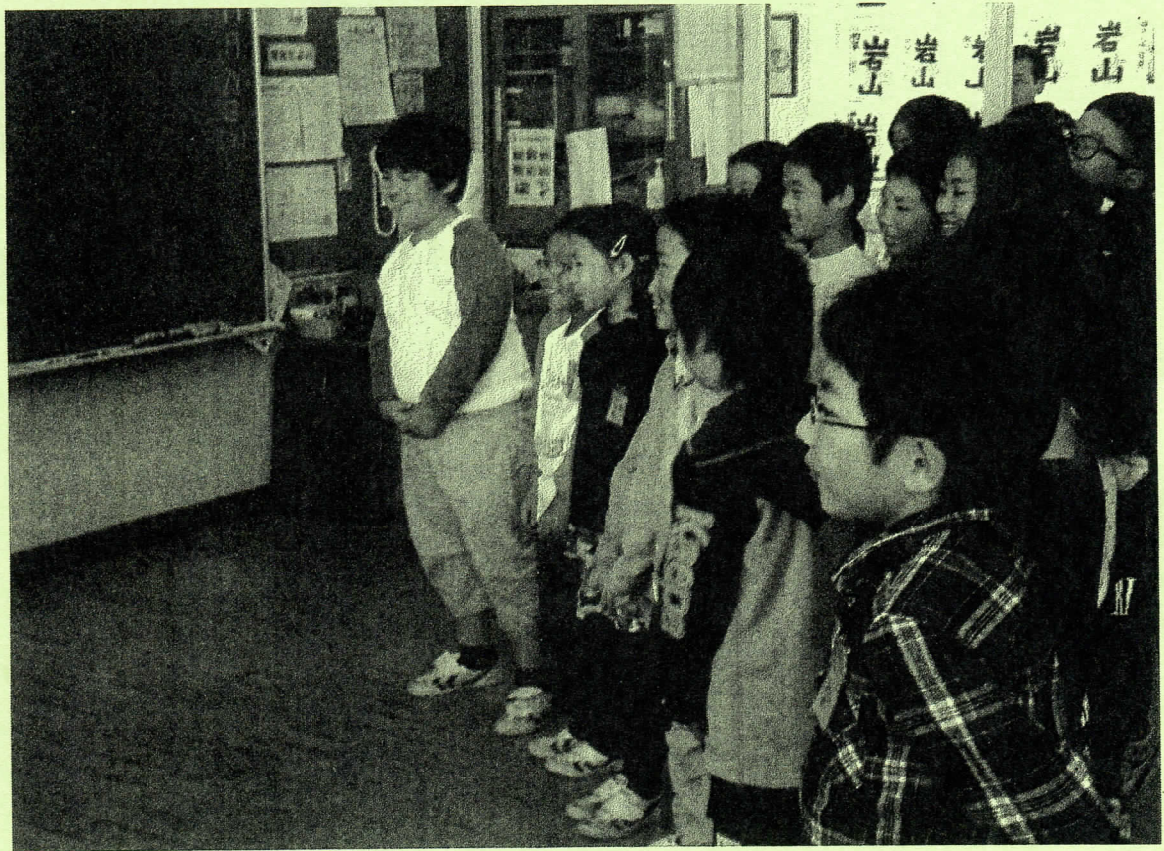


# 4年生

「三河島菜を復活させよう！」



総合単元名		4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
総合単元目標		<p>◎3Rをしよう (5時間)</p> <p>◎下田臨海学園 (2時間)</p>			<p>◎三河島菜を復活させよう (21時間) 鮎川村とのテレビ会議システム</p>			<p>◎1/2成人式をしよう (7時間)</p>					
総合単元目標		<p>◎現代社会のごみ問題を理解し、環境について考える力を養う。ESD                      ◎調べたことを分かりやすく工夫して表現することができる。                      ◎集団宿泊活動を通して人間関係・公衆道徳など望ましい体象を積み。</p>											
評価標準	課題発見力	<p>◎ごみの処理や再利用の学習から自己の課題をもち、すんで調べたり発表したりしようとする。</p>											
	実践力	<p>◎東京がかかえるごみ問題について自分なりの考えをもって生活することができ。</p>											
	自己表現力	<p>◎まとめた資料をもとに、学習したことを分かりやすく伝えることができる。</p>											
各教科	情報活用能力	<p>◎課題解決に必要な資料を選択して調べることができる。</p>											
	道徳	<p>◎課題解決に必要な資料を選択して調べることができる。                      ◎情報機器の活用を通して、発信・受信の楽しさを味わいながら学びの世界を広げる。</p>											
	特活	<p>社会：ごみ (14時間)                      ※つくばアラホタリウム・清掃工場見学                      理科：ごみや栽培 (1時間) 緑のカーテン</p>											
食育	<p>社会：わたしたちの東京・島のくらし (8時間)                      ※島のアンスタバも参考にする                      理科：三河島菜収穫</p>												
学校行事等	<p>朝ごはんを食べよう (1期) 海藻を知ろう (1期) ご当地レシビ (1期) 清里準備 (2期) 親子レククッキング (三河島菜と椎茸)</p>												
学校行事等		<p>運動会 5月31日 三河島菜名人に聞こう (1時間)</p>											
学校行事等		<p>理研ピタミン (土曜日可) 伝統野菜研究所 江戸東京伝統野菜 漁港漁場産村技術研究所                      資料は届く 宮寺光政 042-341-3191 大竹道彦 090-3222-4314 久保田弘道 5833-3225                      ◎ESD=ユネスコスクールが定める持続発展型教育の価値 (人と人・人と自然・人と社会のつながり) ◎三河島菜を復活させよう (21時間) 鮎川村とのテレビ会議システム ◎1/2成人式をしよう (7時間)</p>											

## 第4学年 総合的な学習の時間 指導案

平成25年11月27日(水) 5校時

荒川区立尾久宮前小学校

4年1組23名

場所 教室

授業者 志村 悠子

### 研究主題「思いや考えを伝え合う児童の育成」

～生活科・総合的な学習の時間の食育授業実践の検証を通して～

#### 1. 単元名「三河島菜を復活させよう」

#### 2. 単元の目標

- 育てた三河島菜を広めて復活させ、地域を大切にしようとする。
- 相手に分かりやすく伝えるために方法を考え、工夫してまとめて表現しようとする。
- 収集した情報を整理したり分析したりして、自分の考えを効果的に伝えようとしている。

#### 3. 研究主題との関連

目指す児童像 (中学年)	仮 説	分科会の取り組み (●本単元での取り組み・他教科等での取り組み)
<ul style="list-style-type: none"><li>・相手のことを考えて、自分の考えを工夫して伝える子</li><li>・相手の考えと比べて聞く子</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・相手を意識して自分の考えを整理することで、話し方やまとめ方を工夫して伝えることができるだろう。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>●伝える相手を明確にすることで、伝える方法が具体化できる。</li><li>●調べ学習の発表後は、感想を交流し合う。</li><li>●他教科においても自分の考えと友達のことを比較し、お互いを認め合っている。</li></ul>

##### (1) 目指す児童像について

###### ①相手のことを考えて、自分の考えを工夫して伝える子

学年が上がるごとに自分の考えや調べたことを発表する機会は多くなっていく。まずは伝えたい内容を決める。それから相手を明確にし、聞く相手によって伝えたい内容を考え、より効果的に伝えられるように発表方法も工夫することができるようになってもらいたい。

###### ②相手の考えと比べて聞く子

友達のことを聞くことにより、自分の考えだけでなく友達のことを比べることができる。このことで、考えの相違に気付くことができるようになってほしい。

## (2) 研究仮説について

- ① 相手を意識して自分の考えを整理することで、話し方やまとめ方を工夫して伝えることができるだろう。

まずは伝える内容を明確にすることで伝える相手が決まってくる。そして、見たり聞いたりしたことから伝えたい資料を選ぶ。資料から選んだ情報と自分の考えを入れたポスターやチラシなどにする。そのことで伝える相手によって効果的に伝えることができるだろう。

## (3) 研究主題に迫るための手立て

1. 「伝えたいことや思いを明確にする」
2. 「伝えたい相手を決める」
3. 「効果的に伝わる方法を選ぶ」

と3つの段階を発表までの過程とした。

### ①効果的な表現方法を選ぶ。

伝える相手によって表現する方法を選ぶ。

三河島菜の存在を知ってもらうこと。東京には昔からの伝統野菜があり、荒川区にもかつて三河島菜の名前がついた野菜あったが、衰退してしまい宮前小で復活させているところである。宮前小の食育の取り組みを今後も続けて行くためには、誰にどのように伝えるかということが効果的であるかと考えた。

地域には、ポスターを貼ったり、ちらしを直接手渡ししたりして、三河島菜の種の存在を知らせた。その後手紙を添えた種を配布した。

鮭川小学校には、今まで調べたことをテレビ会議システムを使い、ポスターや寸劇で直接伝える。

3年生には、今まで調べてきた三河島菜について3年生が理解できる言葉に直し、「命のつながりの大切さ」と「地域の大切さ」をポスターやイラスト、写真を用いて伝える。

### ②相手の考えと比べて聞く

自分の考えを友達の意見と比較する活動を他教科でも実践している。「正解」「不正解」という考えにとらわれず、自分と違う意見に対して自分の考えをもち発表するという体験を多くもたせることで、伝え合う活動が深まっていくと考えた。

## (4) カリキュラムの検証について

- ①昨年度までは、「三河島菜の復活」に取り組みの重点をおいてきた。今年度の取り組みは、「三河島菜を広める」活動を多く取り入れた。広めるためには広報活動が不可欠となり、効果的に相手に伝える表現方法を身に付けていく時間を多く設定した。

- ②本時では山形県鮭川小学校とのテレビ会議システムを設定している。発表後、感想を聞くことで伝えたい情報が正確に伝えられたかの評価をしていく。後日鮭川小学校からの発表を聞き、伝えられる側の立場から、効果的な発表方法を知り、実践することができるようになると考えた。

## (2) 研究仮説について

- ① 相手を意識して自分の考えを整理することで、話し方やまとめ方を工夫して伝えることができるだろう。

まずは伝える内容を明確にすることで伝える相手が決まってくる。そして、見たり聞いたりしたことから伝えたい資料を選ぶ。資料から選んだ情報と自分の考えを入れたポスターやチラシなどにする。そのことで伝える相手によって効果的に伝えることができるだろう。

## (3) 研究主題に迫るための手立て

1. 「伝えたいことや思いを明確にする」
  2. 「伝えたい相手を決める」
  3. 「効果的に伝わる方法を選ぶ」
- と3つの段階を発表までの過程とした。

### ①効果的な表現方法を選ぶ。

伝える相手によって表現する方法を選ぶ。

三河島菜の存在を知ってもらうこと。東京には昔からの伝統野菜があり、荒川区にもかつて三河島菜の名前がついた野菜あったが、衰退してしまい宮前小で復活させているところである。宮前小の食育の取り組みを今後も続けて行くためには、誰にどのように伝えるかということが効果的であるかと考えた。

地域には、ポスターを貼ったり、ちらしを直接手渡ししたりして、三河島菜の種の存在を知らせた。その後手紙を添えた種を配布した。

鮭川小学校には、今まで調べたことをテレビ会議システムを使い、ポスターや寸劇で直接伝える。

3年生には、今まで調べてきた三河島菜について3年生が理解できる言葉に直し、「命のつながりの大切さ」と「地域の大切さ」をポスターやイラスト、写真を用いて伝える。

### ②相手の考えと比べて聞く

自分の考えを友達の見解と比較する活動を他教科でも実践している。「正解」「不正解」という考えにとらわれず、自分と違う意見に対して自分の考えをもち発表するという体験を多くもたせることで、伝え合う活動が深まっていくと考えた。

## (4) カリキュラムの検証について

- ①昨年度までは、「三河島菜の復活」に取り組みの重点をおいてきた。今年度の取り組みは、「三河島菜を広める」活動を多く取り入れた。広めるためには広報活動が不可欠となり、効果的に相手に伝える表現方法を身に付けていく時間を多く設定した。

- ②本時では山形県鮭川小学校とのテレビ会議システムを設定している。発表後、感想を聞くことで伝えたい情報が正確に伝えられたかの評価をしていく。後日鮭川小学校からの発表を聞き、伝えられる側の立場から、効果的な発表方法を知り、実践することができるようになると考えた。

## (5) ユネスコとの関連

### ①人と社会

3年生で尾久の町、荒川区の学習をした。本校児童の保護者は卒業生という家庭も多く、本校は地域に根差した学校である。地域の名前がついている三河島菜を栽培し、広める活動を通して、郷土に対する愛情をもつようになってもらいたい。

また、今年度も「ご当地レシピコンテスト」にも取り組んだ。このコンテストは、地域の活性を目指し、三河島菜を全国に知ってもらうこと。また、一作品出品すると、ユニセフを通して東北の被災地に500円の寄付ができることを目的に実施した。

この取り組みを通して、社会の一員として、被災地や社会に貢献しているという実感をもってほしい。

### ① 人と人

昨年復活させた三河島菜を次の世代に伝えていくことで「命のつながり」を感じさせたい。地域の方や保護者にだけでなく、全校でも共有していく。特に来年度栽培に取り組む予定の3年生には、種を伝えることで「命のつながり」をより強く感じてほしい。

### ② 人と自然

三河島菜を一人一株育てることが復活させる活動の一つになる。実際に栽培することを通して、昔からの「命のつながり」を実感してほしい。

## 4. 単元設定の理由

本校では、3年前から4年生が総合的な学習の時間で三河島菜の学習をしている。昨年の4年生は東京都の地名がついている伝統的な作物や、荒川の地で栽培されていたが今は作られなくなってしまった「三河島菜」について学習をし、復活させていく取り組みを実施した。

昨年度は復活の活動の中で、荒川区の伝統野菜であること、地域の名前がついている野菜であること等を、新聞やテレビ、区報ジュニアやケーブルテレビ等で取り上げられている。それにより地域の中にも強く関心をもった方もいる。

今年度は、新5年生から新4年生に種を受け継ぐことで「5年生が育てた貴重な三河島菜を絶やさないようにしよう」そしてまた「次につなげていこう」という気持ちを育ませたい。地域の方に広報活動を通し、広めていくことで、やがては荒川区全体に三河島菜を広げられるようこの取り組みを考えた。

## 5. 児童の実態

本学級の児童は、一つの目標を決めるとそれに向けて一生懸命取り組むことができる。さまざまな活動の中で調べたことを発表する機会を作り、学級の中で発表会をしてきた。調べてきた事実をまとめる力についてはついてきている。しかし、そこから自分の考えを表現することができる児童が少ない。そこで、グループ活動を取り入れてみた。その結果、個人で考えをまとめるのは難しい児童も、友達に協力してもらいながら自分の考えを表現できるようになってきた。グループ活動を通して、リーダーの児童が指揮をとりながら活動していけるようになってきている。

本単元では、江戸東京伝統野菜や三河島菜の歴史を知り、『命のつながり』を意識することが

求められる。そして、このまま終わらせないために自分たちには何ができるか、地域の伝統野菜を通して尾久の町をこれからも大切にしていこうという気持ちをもって行ってほしいと考えている。

「育てよう」の導入では、育て方を本やPCで調べたが、最近復活した三河島菜は珍しい野菜であることから情報や資料の少ないことがわかった。そこで、小平市から生産農家 宮寺光政さん（江戸東京野菜生産者）にゲストティーチャーとして参加していただくことで、栽培への意欲を高めることを狙った。また、一人一株の栽培活動を行うことで、自主的に栽培しマイ三河島菜を収穫する喜びを味わわせたい。毎週月曜日の全校朝会后に畑に行き観察し、定期的に全員が三河島菜の成長を観察できるよう工夫する。

「知ろう」では大竹道茂さん（江戸東京・伝統野菜研究会）というスペシャリストを招いて江戸東京伝統野菜や三河島菜について質問できる環境を整える。三河島菜のほかにも東京には昔から伝わる伝統野菜があり、現代まで続いているものもあれば、衰退したのちに復活を遂げているものがあることを知り、「命のつながり」を考えるきっかけとした。

6. 教材構造図

三河島菜を復活させよう！

単元

中心概念

- ・地域の伝統野菜である三河島菜を復活させ、昔から続いてきた命のつながりを絶やさないようにする。
- ・地域の伝統野菜を通して、地域を大切にしていこうという気持ちをもつ。

基本的事項

「育てよう」

1次（4）時間

復活した三河島菜を広める計画を立てる。

「知ろう」

2次（5）時間

三河島菜や江戸東京野菜は昔から栽培されている。

「広めよう」

3次（15）時間

伝える相手によって、よりよい伝わり方を選択する。

要素

【現在の三河島菜の歴史】  
荒川区には江戸時代に育てられていた三河島菜という野菜があった。

【栽培する】  
荒川区では三河島菜が育てられていた。

【三河島菜の特徴】  
白菜が日本に入ってくるまでは、三河島菜が主流で漬物として食されていた。

【江戸東京野菜】  
東京には昔から栽培され、地名がついた野菜がある。

山形県 鮭川小学校の4年生に伝える。

【三河島を伝える①】

自分たちで考えた三河島菜のレシピから料理を作る。

【三河島菜を伝える②】

とする気持ちを伝える。

3年生に三河島菜を伝え、命のつながりを絶やさないようにする。また、尾久の町を大切にしようとする気持ちを伝える。

【三河島菜を伝える③】

学習材  
学習活動

① 昨年の4年生の活動を振り返る。

② 三河島菜生産者の宮寺さんから三河島菜について教えてもらい、種を植える。

③ ④ ⑤ 地域の方々にも育ててもらおう。  
(ポスター・チラシ・種の袋詰め・説明書作りなど)

⑥ 大竹先生から江戸東京野菜について教えてもらう。

⑦ ⑧ ⑨ 江戸東京野菜について調べ、まとめたものを発表する。

⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ 伝える相手のことを考え、発表する内容や方法を考える。

⑯ ⑰ ⑱ ⑲ 三河島菜レシピから三河島菜料理を作る。

⑳ ㉑ ㉒ ㉓ 三河島菜を途絶えさせないために、3年生に三河島菜の大切さを伝える。



7. 指導計画

	ねらい	主な学習活動 (○) 児童の反応 (・)	◆留意点 ※資料 ☆評価
1	◎三河島菜を絶やさないうちにしようという気持ちをもつ。	○5年生が復活させた三河島菜をこれからどうしていくか考える。 ・もっと増やしたい ・二代目を作りたい ・料理したい ・日本中の人たちに食べてもらいたい ・自分たちで育てて、みんなに知ってもらおう	☆三河島菜を広めようとする気持ちをもっている。【関-①】
2	◎三河島菜の育て方を知る。	○三河島菜生産者の宮寺さんから三河島菜について教えてもらう。 ○三河島菜の種を植える。 ・種が小さい ・大きく育ててほしい	☆育て方を知り、大切に育てようとしている。【関-②】
3	◎三河島菜を広めるための計画を立てる。	○三河島菜を広めるための計画を立てる。 ・ポスター ・種を配る ・新聞	☆伝える相手を定めて伝える方法を考えることができている。【技-①】
4	◎地域の方に三河島菜の種を配る準備①	○説明書を同封し種を袋詰めにする。	※江戸東京野菜読本
	◎三河島菜の間引き・試食	○間引きをし、試食する。 ・青菜の味がする。 ・自然の味がする。	
	◎三河島菜の種を配る準備② ポスターとチラシ作り	○三河島菜の種を配るための準備をする。 ・チラシは見たことがあるけれど、何を書いたらいいかわからない ・宣伝するためには看板を使えばたくさんの方に見てもらえるから効果的だよ。	☆見てもらう人のことを考えながら、見やすいチラシやポスターを作っている。【表-①】 ※江戸東京野菜読本
◎ポスターを配布し広報する。 三河島菜の種を配る。 常設・手渡し (一人2袋)	○トミエストア前でチラシを配り、三河島菜の種を配布することを地域の方へ告知する。  ○学習発表会を利用して、地域や保護者の方に三河島菜の種を配る。 ・たくさんもらってほしい。 ・昨日チラシを配った人は来てくれるかな。	◆学習発表会のお客さんの帰りの時間を利用してたくさんの方々に配れるようにする。	
5	◎江戸東京野菜について知る。	○大竹先生に江戸東京野菜や三河島菜について教えてもらう。 ・三河島菜も江戸東京野菜の一つだったんだ。	☆昔から続いている命のつながりを大切にし、これからもつなげていこうという気持ちを持つことができている。【関-③】

6 7 8 9	◎江戸東京野菜について調べて発表し合う。	○江戸東京野菜について調べてまとめたものを発表し合う。	☆調べた江戸東京野菜をわかりやすくまとめている。【表-②】
10 11 12	◎鮭川村の小学校に伝える計画を立てる。	○鮭川小学校へ三河島菜の発表をする計画を立てる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"><b>◀発表内容▶</b> ・尾久の町の紹介 ・江戸東京野菜の紹介 ・歴史→参勤交代で仙台に移っていた（劇） ・育て方（今までの経過を発表） ・食べ方（レシピの紹介）</div>	☆今まで調べた資料の中から、伝えたい内容を選ぶことができた。【技-②】  ◆三河島菜のことを全く知らない相手に伝える計画を立てる。
13 14	◎発表練習	○わかりやすい発表を心掛けて練習する。 ・わかりやすい発表ってなんだろう？ ・声の大きさ、スピード ・わからなさそうなところは説明を入れたほうがいいね。	◆わかりやすい発表とは具体的にどうしたらいいのかを考えさせながら練習に取り組ませる。
15 (本時)	◎鮭川村の小学校に発表	○テレビ会議システムで鮭川小学校の4年生に三河島菜を発表する。 ◀尾久の町について▶ ◀江戸東京野菜について▶ ◀三河島菜について▶ ・うまく伝えることができたかな？ ・緊張したけど楽しかった。	☆鮭川小学校の4年生に自分たちが伝えたかった三河島菜のことを伝えることができた。【技-③】 ◆授業後にも、鮭川小学校との交流をもつようにする。
16	◎三河島菜料理を考える。	○三河島菜レシピからどの料理を作るか考える。	◆音楽会当日にレシピをパネルに貼り、にこにこすくーる前廊下に掲示する。 ※ご当地レシピ
17	◎三河島菜の収穫	○三河島菜を収穫する。 ・大きくなった	◆自分で育てた1株を持ち帰り、家庭で味わう。
18 19	◎自分たちで考えたレシピで三河島菜料理を作る。	○親子で三河島菜料理を作る。	*夏休みの課題であったご当地レシピから作りたいものを選ぶ。
20	◎鮭川小学校の発表を聞く。	○鮭川小学校の発表の良いところを見つけよう。	◆事前に発表内容を聞き、簡単に児童に説明しておく。
20 21	◎3年生への引き継ぎの計画を立てる。	○3年生へ三河島菜を引き継ぐために計画を立てる。	☆伝える相手を意識し伝える内容を考えることができた。 【技-④】
22	◎発表練習	○わかりやすい発表を心掛けて練習をする。	◆3年生にもわかる言葉で発表できるように配慮する。

23	◎3年生に発表	○3年生に三河島菜の大切さを伝える。	☆命をつなげてほしいという気持ちをもって発表することができた。(関心)
24	◎種を収穫できたら鮭川村の小学校に送る。	○三河島菜の種を取り、鮭川小学校へ送る。 三河島菜の種を取り、手紙を書いて同封する。	◆年度内に種の収穫ができなくても、年度内に手紙を書く。(種が収穫できた時点で送る。)

8. 本時の指導 ( 15 / 24 時)

(1) ねらい

○伝える相手を意識し、効果的に伝えることができる。(表現)

(2) 展開

時間	◎めあて □主な学習活動 ・児童の反応	指導上の留意点 ◆支援 ・留意点 ☆評価
13:50	◎本時のめあてを理解する。 □本時のめあてと学習の流れを確認する。	・始業前にテレビ会議システムを起動させておく。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">                         鮭川小学校の4年生に三河島菜を伝えよう！                     </div>		
13:55	□両校の挨拶をする。 ◎相手を意識し、効果的に伝える □鮭川小学校へグループごとに発表する。  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p style="text-align: center;"><b>&lt;発表内容&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・尾久の町の紹介</li> <li>・江戸東京野菜の紹介</li> <li>・三河島菜の歴史→参勤交代で仙台に移っていた(劇)</li> <li>・三河島菜の育て方(今までの経過を発表)</li> <li>・三河島菜の食べ方(レシピの紹介)</li> </ul> </div>	・発表を見てもらう時の観点を予め伝えておく。(前日までに担任の先生に連絡。発表の前に学級指導で子供たちに伝えてもらう。)
14:10	□鮭川小学校から質問や感想を聞く。	
14:20	◎相手に伝わったかどうかを振り返る。 □鮭川小学校からもらった感想をふまえて自分の発表のふり返りをする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・三河島菜のことを知ってもらえてよかった。</li> <li>・もっと知りたいことを聞くことができてよかった。</li> </ul>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>*わかったこと</li> <li>*初めて知ったこと</li> <li>*もっと知りたいこと</li> </ul> </div>
14:25	□ふり返りを発表する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・初めてテレビ会議システムを使って遠くにいる人と話すことができて楽しかった。</li> <li>・自分たちが伝えなかったことをきちんと伝えることができたか不安だった。</li> </ul>	☆伝える相手を意識し、効果的に伝えることができている。【発言・ワークシート】 *後日、鮭川小学校から感想をまとめてもらい、評価につなげる。

\*《テレビ会議システムを使用するに当たり》

- ・発表する内容をいくつか絞る。(1~2つ)
- ・担任同士の内容確認が重要。

事前に、具体的なタイムスケジュールや発表原稿を送っておき、確認しておく。

- ・話し方の指導が課題(速さ・文章の長さなど)
- ・画面の映り方の確認を事前しておく。

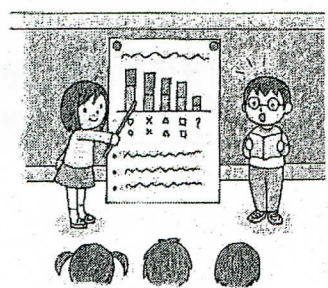
音が割れたり、資料などが見にくい場合があるので、発表練習時に確認しておく。

# 鮭川小学校の4年生に「三河島菜」を伝えよう！！

( )グループ


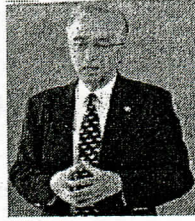
○鮭川小学校の4年生に『三河島菜』を伝えてみて、

思ったことや感想を書こう！

## 4年『三河島菜を復活させよう』資料

### ◎ゲストティーチャー

お名前	連絡先	メモ
宮寺 光政さん (小平市宮寺農園) (江戸東京・伝統野菜研究会) 	〒187-0032 小平市小川町 1-235  ☎042-341-3191	・種まきの仕方 ・育て方
大竹 道茂さん (江戸東京・伝統野菜研究会代表) 	〒196-0001 昭島市美堀町 1-11-6  ☎090-3222-4314	・三河島菜 ・東京の伝統野菜
NIPPON 日本製粉株式会社 小学生 ご当地アイディア料理 コンテスト	〒151-8537 渋谷区千駄ヶ谷 5-27-5 ※応募資料が送付されます	・伝統野菜を使った レシピを考えよう (夏休みの宿題)

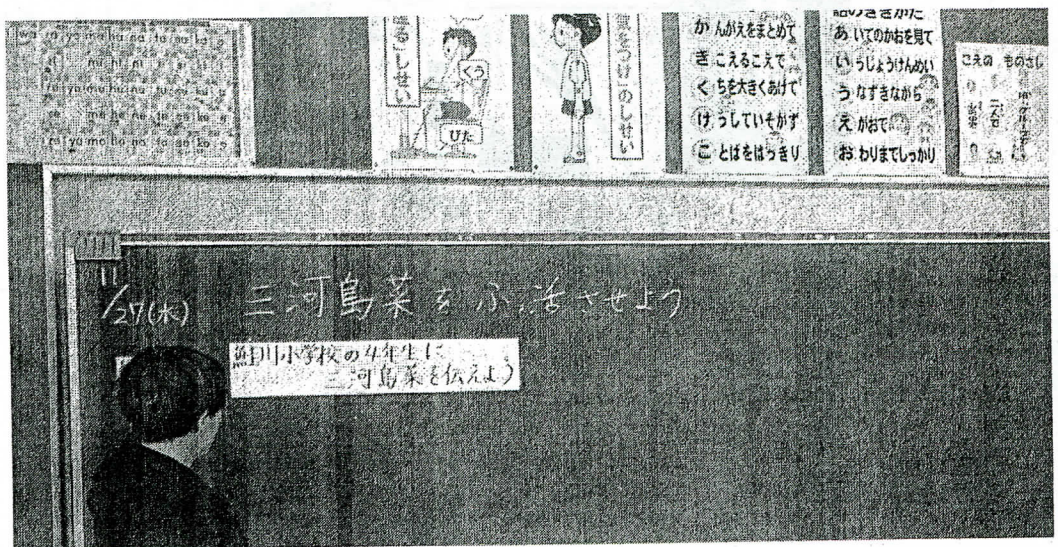
### ◎教材

教材名	保管場所	数	メモ
「江戸東京野菜読本」 	図書館	40	・東京伝統野菜 (分類、原産地、別 名、栽培、収穫時期、 大きさ、ルーツ、レ シピなど)

## 4年 実際の授業展開

教師の働きかけ	児童の反応 「」 発言 ・ 行動
<p>1. 本時のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p><b>鮭川小学校の4年生に 三河島菜を伝えよう。</b></p> </div> <p>2. 両校のあいさつをし、宮前小がグループごとに鮭川小に発表する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>＜発表内容＞</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・尾久の町の紹介</li> <li>・江戸東京野菜の紹介</li> <li>・三河島菜の歴史→参勤交代で仙台に移っていた（劇）</li> <li>・三河島菜の育て方（今までの経過を発表）</li> <li>・三河島菜の食べ方（レシピの紹介）</li> </ul> </div> <p>3. 鮭川小から質問や感想を聞く。</p> <p>4. 相手に伝わったかどうかを振り返る。</p> <p>5. ふり返りを発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習の流れの確認をする。</li> <li>・発表を見てもらう時の観点を確認する。</li> <li>・テレビ会議システムを活用して、グループごとに発表をする。</li> <li>・鮭川小から出た質問に答える。</li> <li>・ワークシートに本時のそれぞれのまとめを記入する。</li> <li>・書いたことを発表する。</li> </ul>

## 本時の板書





## 1. 校長挨拶

○講師紹介 国士舘大学文学部初等教育専攻准教授 千葉 昇先生

○次の段階に行くようなステージになってきた。千葉先生は、どのように研究を進めていくかの話し合いを楽しみにしていた。

## 2. 経過報告 (分科会責任者より)

○表現活動において伝える内容「何を伝えたいか」が大切になると考え、授業を進めてきた。その後、相手によってどのように伝えていけばいいのかを考えさせた。

○テレビ会議システムを活用し、遠隔地に伝えるためにどうすればいいかを考えさせた。(絵や劇などを交えさせたり、言葉の精選を行ったりした)

## ○ユネスコとの関連

人と自然 育て方や、土地の関わりがある。

人と人 異学年や他地域などの人に伝える。

## 3. 自評

○伝え合うことを意識して学習を進めてきた。相手の反応を見て、自分たちの伝え方がどうだったのかを振り返っていく。

○学校内で、上級生が三河島菜を学習しているのを見てきて、「学習したい。」という意欲がとても高かった。

○課題は、聞いてほしい観点を絞っておいたが相手の質問に答えることができなかった。そこで質問の時間はなくてもよかったのではないか。感想だけを言ってもらえばよかった。

## 4. 授業の様子

## ①全体記録より

○発表の順序は、荒川区の紹介、学校の紹介、江戸東京菜の紹介、歴史について、三河島菜の紹介と育て方や味について、三河島菜のレシピ、おわりのあいさつだった。

○質疑応答や授業の感想の発表が行われた。

## ②抽出児童より

Kさん・覚えたセリフをしっかりと言えた。質問に対しては、自信無さそうに小さな声で答えた。発表を頑張っていたので、振り返りの時に集中力が切れてしまった。

Rさん・めあてを書いた時に何度も復唱をしていた。何度も友達と打ち合わせをしていた。本番では、緊張で上手く出来なかったが意欲が感じられた。質疑応答では、指名されることはなかったが、答えようとしていた。発表に全力を注いだ分、振り返りでは少し疲れてしまった。

## 5. 協議 (成果◎と課題△)

## 低学年分科会より

伝える内容を明確にする	△伝える内容を三河島菜にしばって発表するべきだった。質疑応答は、グループ発表毎に行うことで質問が出やすくなるのではないか。
伝える相手を考える	◎テレビ会議システムの活用がよかった。 △提示資料が見つらく伝わりにくい。情報を伝える時期がもっと学習を進めてから行えばよかった。

中学年分科会より

伝える相手を考える	△相手には、三河島菜以外の内容を事前に知らせておき、相手からの質問を打ち合わせておくことが必要ではないか。
方法の選択 言葉の工夫	△めあてが伝えきれていなかった。

高学年分科会より

伝える内容を明確にする。	△テレビ会議システムの特徴は、リアルタイム、双方向で行われること。質問のやりとりがあるとよかった。
伝える相手を考える	△三河島菜のことを伝えたいという「思い」をしっかりともち、相手にその気持ちが伝わる構成をしたほうがよい。 ・「三河島菜の復活」の意欲が子供たちにしっかりともたせていきたい。
方法の選択、場の工夫、言葉の工夫	△受け継がれてきていることをおさえる。 △教師が進行にもっと介入しても良かったのではないか。 △「効果的な説明の仕方」がどのようにとらえていたのか。

6. 協議内容

- 児童自身が「三河島菜」を深く意識してはいなかった。「復活させる」という意欲にもってくために、前年の内容を伝えることで、意欲を高めていく。
- 資料は、調べ学習でまとめたものを使用したため、見せるものとしては適切でなかった。
- 江戸東京野菜についての取り扱いをもっと軽くし、三河島菜の情報をもっと重くすべきだった。
- 「食べたことがないので分かりません。」という発言が、カリキュラムの改善を考えるきっかけとなる。「わからない。」と言える子供を育てていく。

7. 指導講評

- 今回の授業では、児童自身が「伝えたい内容」を明確にもっていなかった。そのため、発表の手法ばかりにこだわってしまい、方法がうまくいったかそうでなかったかという振り返りになってしまう。
- 表現活動をする際に大切なことは「伝えたい内容」であり、それはインターネットで集めた情報・知識だけでなく自分が体験したことや見つけたことが核となる。
- 表現活動の段階は、受信、発信、交流を通して合意形成を行っていく。児童の実態を見ることで、受信、発信、交流それぞれの場面の宮前小なりの到達目標を設定していく必要がある。それが今年度の成果となっていく。
- 一次では、三河島菜の出会いをしっかりと行う。二次では、「どうしてなくなったのか」という内容が入る。おさえるべき内容、方法、表現力が提案され、カリキュラム作りの最終段階にはいった。これを整理していく。そのため、一般化をするために、ぜい肉をそぎ骨だけを残していく。

8. 謝辞（副校長より）

- 今日の授業の中で「何を伝えたいのか」を明確にもつこと。それは、教師側にも必要なことではないかと感じた。
- 中学年分科会の先生方には、テレビ会議システムという新しい内容の提案をしてもらった。
- 千葉先生、ご指導ありがとうございました。

## 授業の成果と課題

### 4年「三河島菜を復活させよう！」

授業者 志村 悠子

#### ◎本時について

本時はテレビ会議システムを使った発表にした。計画当初の予定ではなかったもので、イベント化した感じが残ってしまった。しかし、発表することの楽しさ、達成感は今まで発表した以上のものを感じることができた。

テレビ会議システムは初めての取り組みであったので、本時に向けて手さぐり状態であったが、「見やすい・聞きやすい発表」を意識して準備をしてきた。

#### ◎授業の成果と課題

<b>成果</b>	<p><u>表現活動 の視点から……</u></p> <ul style="list-style-type: none"><li>○体験活動やゲストティーチャーとの関わりにより、三河島菜に興味をもち、意欲的に活動できた。</li><li>○遠くにいる人に発表できたことで発表することの楽しさや達成感を味わうことができた。</li></ul> <p><u>カリキュラムの検証 の視点から……</u></p> <ul style="list-style-type: none"><li>○テレビや新聞など、自分たちが取り組んだ活動が広まっていく様子が実感できたのがよかった。</li></ul> <p><u>ユネスコとの関連 の視点から……</u></p> <ul style="list-style-type: none"><li>○レシピ作りや広報活動を通して、自分たちと「人・自然・社会」がつながっているということが実感できた。</li></ul>
<b>課題</b>	<p><u>表現活動 の視点から……</u></p> <ul style="list-style-type: none"><li>○発表の題材が共通のものでないと、お互いに理解しづらい</li><li>○発表する前に、テレビ会議システムを通した時の伝わり方を把握しておくべきである。(音声の大きさや、資料の見え方)</li></ul> <p><u>カリキュラムの検証 の視点から……</u></p> <ul style="list-style-type: none"><li>○テレビ会議システムをどの程度活用していくか、考えていかなければならない。</li><li>○年度初めにきちんと計画をしていかなければならない。</li></ul> <p><u>ユネスコとの関連 の視点から……</u></p> <ul style="list-style-type: none"><li>○命のつながりをもっと意識させたかった。「前年度から引き継いだ三河島菜を3年生につなげていこう」とする気持ちをもう少し引き出しながら学習を進めていければよかった。</li></ul>